



6月8日、関城西小学校で実施した『学校訪問ブックトーク』で、中央図書館職員による本の紹介を熱心に聞く児童たち。この日は、『虫』というテーマで10冊の本を紹介しました。

本に親しみ、 ふれあいを深める

『ブックスタート』と『学校訪問ブックトーク』

本に親しむことは、豊かな心を育てるためにとても大切。しかし、子どもたちの活字離れ、読書離れが年々進んでいると言われます。

そこで市は、『ブックスタート』や『学校訪問ブックトーク』など、子どもたちの読書環境を整え、本に対する関心を高めるための事業を行っています。乳幼児に絵本を読み聞かせ、赤ちゃんと保護者の絆を深める『ブックスタート』、小学校を訪問して児童に本の紹介をする『学校訪問ブックトーク』について、紹介します。

ブックスタート…絵本でふれあう赤ちゃんと保護者

市は、各保健センターによる『3～4か月児健康診査』の対象者に対し、『ブックスタート』を実施しています。すべての赤ちゃんに優しく話しかけ、楽しいひとときが過ぎる読書環境を整える。その限らない可能性を伸ばし、豊かでまっすぐな心を育てる。赤ちゃんを取り巻く人たちとのふれあいをより深めてもらう…これが『ブックスタート』の主な目的。『ブックスタート』では、ボランティアや図書館職員などが「赤ちゃんと絵本を一緒に楽しもう。本で遊びを分かちあおう」というメッセージを伝えた後、赤ちゃんと保護者に絵本を優しく読んで聞かせます。



『ブックスタート』で贈られる絵本
(絵本の内容は地域によって異なります)



明野図書館職員が絵本を使って優しく語りかけると、心がほぐれて笑顔を見せる赤ちゃん。明野地区で行われた『ブックスタート』の様子。



学校訪問ブックトーク…児童が本を読むきっかけづくり

笑顔を見せたり、身を乗り出して絵本に触ろうとしたり、様々な反応を見せる赤ちゃん。こうして赤ちゃんが保護者が絵本を読む時間を共有し、心のふれあいを深めていくのです。また市は、家庭に帰っても保護者と赤ちゃんがふれあいを深められるよう、参加者に絵本バックを贈るなどしています。

平成4年、イギリスのバーミンガム市で行われたのが『ブックスタート』の始まり。日本では平成13年4月から、全国に先駆けて、旧明野町など全国12自治体が事業を開始しました。現在市内では、明野・関城・協和地区に住む対象者に対し、明野図書館・関本公民館・協和公民館の主催で実施中（会場＝それぞれ各地区の保健センター）。残る下館地区でも、今年8月から、中央図書館が実施する予定です（会場＝下館保健センター）。

『学校訪問ブックトーク』は、図書館職員が各小学校に出向き、毎回ひとつのテーマに沿って、児童に本を紹介する事業。視覚に訴えかけるために小道具を使ったり、より興味をひくよう子どもたちへのクイズをはさむなどしながら、数冊の本を紹介します。さらに特徴的なのが、最後まで読まずに途中で中断すること。続きを知りたいという子どもたちの欲求が高まり、それらの本を手にしたくなるのです。

中央図書館では、昨年度の嘉田生崎小における試行が好評だったのを受け、今年度から実施校を6校に拡大。明野図書館でも要望に応じて学校を訪れ、『ブックトーク』を実施しています。今年度、中央図書館が訪問した五所小や関城西小では、時折歓声を上げながら、図書館職員の話を傾ける子どもたちの姿が見られました。このように市は、『ブックスタート』や『学校訪問ブックトーク』などの事業を通じ、より多くの子どもたちが読書に親しむための環境作りを進めています。

『ブックスタート』『学校訪問ブックトーク』についての問い合わせは…
◇中央図書館TEL (24) 3530 ◇明野図書館TEL (52) 2466